第３回金浦中ブロック小中一貫教育校整備検討委員会会議録

日 時　 令和４年７月２１日（木） １４時００分 開議

場 所　 笠岡市役所分庁第４　２階大会議室

会 議 日 程

１　開　　会

２　あいさつ

３　議　　事

（１） 笠岡市の施設一体型小中一貫教育校施設整備の基本的な考え方について

（２） 府中学園視察報告及びアンケート結果について

（３） 今後のスケジュールについて

４　閉　　会

出席者

（委員長）佐々木伸子

（副委員長）原田博道

（委員）池田哲哉　山下敬広　筒井清人　加藤晃祐　山下恭司　高木浩志

　徳山功一　荒川光平　大友萌　森岡崇　軒良子　塚本知佳　川上智子

（事務局 教育委員会）

教育長　岡田達也

教育部長　森山一成

教育総務課　課長 松尾千鶴　　課長補佐　藤代幸弘　　主幹 福本彰弘

主任主事　猪原亮祐

学校教育課　課長　槙野英一　　参事 平田日出子

教育改革推進室 福尾雅俊　廣井正己

開 会 （１４時００分）

１．開会

事務局が第３回「金浦中ブロック小中一貫教育校整備検討委員会」の開会を宣言。

２．開会のあいさつ

岡田教育長が開会のあいさつをする。

３．議事

（１）笠岡市の施設一体型小中一貫教育校施設整備の基本的な考え方について

　　 　資料１「施設一体型小中一貫教育校施設整備の基本的な考え方」に基づき説明。

　　　　続いて専門用語の説明。

『相互乗り入れ事業』…中学校の先生が小学校に行って授業をすること。より専門的な授業を行うことができ，次のようなメリットがある。現在でも，年に数回相互乗り入れ授業を行っている。

①中学校の教員が小学生に教えるとなると，よりわかりやすく教える必要がある。それにより教員が子どもの反応をきちんと見るようになり，教員のレベルアップが図れる。

②子どもの視点から言うと，やがて行く中学校で出会う先生に前もって会い，授業を通して信頼関係を作ることができる。

③教師側からすると，子ども一人一人の特性が早くから把握できる。そして，いろんな先生がそれを共有できる。

『児童生徒の発達に応じたゾーニング』…発達段階により体格差があるが，学校内で安全に生活するため，この場所はどの発達段階の子どもが使うなど，場所に応じてすみわけができるような配慮を行うこと。

　　委　員　府中学園を建設するときに，保護者や地域に説明する機会が多くあった。その際，

　　　　専門用語ではなく，わかりやすい形で伝えるように心掛けた。中学生が読んでもわか

るようなパンフレットを配布して，教育委員会のやりたいことを伝えていった。

　　委員長　事務局でもわかりやすいパンフレット作成を検討してほしい。

　　委　員　今回の説明では，こういう教育をしたいから，こういう施設にしたいという繋がりが見えてこない。そこを繋げていくのがこの検討委員会の一番の目的である。

　　教育長　いろいろな子どもたちに居場所がある学校を作るため，インクルーシブ教育を推進

したい。例えば，発達障害のお子さんがクールダウンできる場所を作りたい。また，コ

ミュニティースクールを実施しており，保護者ばかりでなく，地域の人も来ることがで

きる会議スペース，交流スペースが作りたいなどという風なことを皆さんに説明すればわかりやすいのだと思う。

　　委員長　それがまだ出ていない。計画自体がぼんやりしていると感じる。

　　事務局　私たちが思い描いたことが抽象的すぎると思う。地域の皆さんで作っていく学校，親しみを持っていただける学校，末永く愛される学校であってほしい。地域のシンボルにもなってほしい。今までになかったものを作っていくのだから，皆さんにより理解してもらいやすいように，資料作りも含めて，地域の方，保護者の方に説明をしっかりしていくことが大事だと思う。

　　教育長　金浦中ブロックでは，どのような教育をしていこうという話をしているのか。

　　委　員　１回目は目指す子ども像を決めて，それに向かって取り組んでいこうということを確認した。目指す子ども像は次の４つの柱。「自ら考え学びを深める児童生徒」「思いやりの心をもって協力し合える児童生徒」「心身ともに健康で体力の向上に努める児童生徒」「郷土を大切にし文化・伝統行事に積極的にかかわる児童生徒」。４つの部会を作って話し合いを進めていき，その実現に向けて今年度どうするかという流れになっていおり，インクルーシブ教育・ユニバーサルデザインなども検討している。相互乗り入れ授業は今は英語を中心にしている。今年度は技能教科においても専門性を活かして，中学校から実施できればという提案をしている。

　　委　員　検討委員会ではソフト面とハード面を協議する必要があるので，よく整理して，会議ごとにハード面とソフト面を分けて協議した方がいいと思う。

　　委員長　これからコンサルタントが入り，次回の会議で具体的な話に入っていける。今日は皆さんの考え・意見を出しほしい。今後それを形にしていきたい。

　　事務局　保護者に小中一貫教育の良さを説明する中で，府中学園を例にしている。「学びの連続性」の部分では，府中学園では中学校で教科教室制を導入している。それにより子どもの教科を学ぶという意欲がわく。笠岡市でも専門性を高めるため，教科教室制をできる範囲で取り入れたい。それにより学力をつけていくうえでいい環境になるだろうという話をしている。

　　　　　教職員について，小学校と中学校では文化が違う。笠岡市の実態を見ても大きな壁があり，相容れるのが大変難しいと思う。現在，小中の先生の交流が始まっており，そこがしっかりできないと学びの連続性は確保できない。そのため，職員室ばかりでなく，小中の教職員がしっかり交流できる場・機能が果たせる施設にしたい。休憩時間に先生に気軽に相談できる場所も必要である。地域・保護者が交流する部屋が必要であるということは，保護者に説明している。

　　　　　全部とはいかないまでも，施設一体型の良さをそこに生かしていきたいと思っている。

　　教育長　今後は笠岡市の理念を実現するために具体的な例を挙げて，皆さんにそれをどう思うかを考えていただけるようにしたい。金浦中学校ブロックではこんな教育がしたい。地域の人を授業にも活用したいという思いがあれば，交流スペース的なものも必要になる。そういった意見もいただきたい。

（２）府中学園視察報告及びアンケート結果について

　　　　　資料２「府中学園視察の様子」，資料３「府中学園視察　池田前校長のお話（概要版）」，資料４「府中学園視察アンケート結果」に基づき説明。

委　員　笠岡市では，小学校も中学校も新設するのか。

　　事務局　金浦中の敷地内で，中学校の校舎・体育館は改修し，小学校を新設し，つながった状態にしたい。

　　委　員　中学校をリフォームするとなると，オープンスペースの確保は難しいと思う。

　　委員長　リノベーションにはかなりの制約がある。文科省もいろいろアイデアを出しており，今後はリノベーションが増えてくると思う。

　　教育長　こういう環境を作ってほしいとの要望をいただき，コンサルに投げて提案をしてもらうようにしていきたい。

　　委　員　府中明郷学園は既存の校舎をリノベーションし，うまく工夫し，教科教室制ができている。

　　委　員　設計する方としては，全部倒して建て替える方が非常にやりやすい。この委員会での最終目標は，設計するための発注書の作成だと考えている。こういうことを実現する設計にしてくださいと。そこを明確にすることまでが仕事だと思っている。例えば，オープンスペースだと，実際使っている中学校の教室を調べたうえで検討していけば，スペースを作れなくはないと思う。

　　委員長　委員会で考えたことがすべて実現できるわけではないが，たたき台を作りたい。

　　教育長　府中学園で，地域の方や保護者が集まれる場所があるのか。

　　委　員　府中学園にはない。将来的に作ってみてはという話は出ている。府中市内の学校ではそういった部屋があるところもある。

　　教育長　そのような部屋があれば，用事がなくても保護者が子どもの様子を見ることができる。用事があるから見に行くではなく，日常的に保護者や地域の方が来ることができ，交流できる場所があるといい。

　　委員長　全国的にもそのような部屋のある学校が増えてきている。登録した地域の人が学校に入り，サポーターとして教室で手伝いをしているところもある。ＰＴＡの部屋があり子どもを見ながら学校の手伝いができるところもある。皆さんからの意見の中で，このようなケースがあるというのは紹介できる。

　　教育長　保護者と地域の方が話をすることで，学校教育が変わっていく可能性がある。保護者の方はそのような部屋があったらどうか。

　　委　員　不安なときに見ることができたら，安心できる。

　　委員長　発達障害があるお子さんの保護者などは，本当に心配で教室の横についている場所ができれば安心されると思う。

　　教育長　笠岡市はスクールカウンセラーも雇用しているので，何かあれば保護者が相談を受けれるような場所があればいい。

　　委　員　インクルーシブ教育，ユニバーサルデザイン，スクールバスについて詳しく聞きたい。バスは中学生も対象か。放課後児童クラブ。土曜日の教育支援事業はどうなるのか。

　　事務局　インクルーシブ教育とは，誰でも居場所があるようにしておくということ。教室の端にクールダウンできるスペースを作るなど。小さめの居住空間がいくつかあれば，クールダウン・勉強・スクールカウンターの相談などができる。

　　　　　ユニバーサルデザインとは，誰もが安心して授業を受けられるデザインのこと。例えば視覚的な刺激を少なくするため，教室の前の方に掲示物をあまり貼らないようにすること。学年が上がっていっても，環境をあまり変えないようにということなど。

　　　　　放課後児童クラブは，保護者のご意見を聞きながら，場所を検討していきたい。

　　事務局　スクールバスは，中学生は対象にならない。今後保護者の方との協議の場を持ち検討していく。

　　教育長　放課後子ども教室は，継続していくかどうかは今後検討したい。ほかのニーズがあれば変えていくことも考えている。

　　委員長　金浦中ブロックで皆さんが取り入れたいと思ったことを順番に発言していただきたい。

　　委　員　学校現場では体育館等で小中学生がブッキングしないようにしてほしい。

　　委　員　ＰＴＡ以外の保護者も関わることができればと思う。

　　委　員　前回の視察に参加できなかったが，詳しい説明が聞けて良かった。子どもたちが休憩して教室に戻れることや，保護者が見に行ったり，先生と話せるスペースを設けるとのことだったので，とてもいいと思う。体育館について敷地が狭いが，できることなら２つ作ってほしい。

　　委　員　地域の方が出入りすれば子どもにいい刺激を与えると思うが，不審者等が心配。どういう形で学校に入ってくるかが具体的になると安心できる。

　　委　員　小１の移動距離が長くなるのは心配なので，教室は中心に集めるなど，コンパクトな作りにしてほしい。

　　教育長　部屋数を増やして何にでも使えるようにしたい。今は満杯の学校が多い。通級学級など，いくつか余裕をもって部屋を作っておくと，柔軟に使うことが可能になる。

　　委　員　府中学園にも通級学級がたくさんある。

　　委　員　金浦小学校では，今年度から試験的に普通教室をそのような部屋にした。教室にいてちょっと苦しくなったら，その部屋に行って，落ち着いたら教室に戻れるように。

　　委　員　小中を分けることも配慮が必要だが，せっかく施設一体になるので小中学生がまじりあう場所が必要。それで子どもたちの心が育つと思う。

　　委　員　小さいブースがたくさんできれば柔軟に使用できる。

　　委　員　公民館長をしており，地域学として小学校でサツマイモを作ったり，米を植えたりしている。３つの小学校が１つになったら，今やっていることがどのようになるか気になる。

　　委　員　小中一貫校の説明について，地域で数回開催した。地域の代表者を決めて，その人がリーダーになって進めていかないと，今のままでは前に進まないのではないか。リーダーが地域の意見を聞き，教育委員会と話をした方がいい。地域を引っ張る人を作ることがまず大切だと思う。

　　委　員　金浦中の浸水対策をしっかりしてほしい。金浦小の放課後児童クラブは狭いので，充実させてほしい。

　　委　員　既存施設を活用するメリットは金銭的な部分だけではなく，今までの学校が残るということもある。昔からの流れが途切れずに，新しい学校に続いていくという点がいいところだと思う。

　　委　員　小学校と中学校の先生が一つ屋根の下に入った時の大変さは想像がつくと思う。小中の先生が気持ちを一つにして前に進み出したときに，先生たちがすごく変わってきた。先生が変われば子どもも変わる。一貫校を作ることが目的ではなく，金浦中ブロックの子どもたちを育てていくことが大きな目的である。目の前のことに一生懸命になり，子どもが置き去りにされることがないように，着実に進めていく必要がある。

　　委　員　空間的に余裕のある学校にしてほしい。子どもたちの活動の時に選べる部屋がいくつもあればと考えている。

　　委員長　皆さんからいろいろな意見をいただいたなかで，今後は理念を形に置き換えていく作業に踏み込んでいきたい。具体的な空間について議論していきたい。

（３）今後のスケジュールについて

事務局　小中一貫教育校の基本計画策定を委託する業者が(株)日総建広島営業所に決定した。次回からは日総建にも参加いただき，皆さんのご意見を聞きながら，基本計画の策定を進めていきたい。

　　今後，検討委員会を３～４回開催する予定。その中で，児童生徒の発達段階や学習内容に応じたゾーニング，児童・生徒の動線を考慮した適切な学校運営を実現させるための配置計画，小中一貫校に導入する機能や必要諸室，面積等の施設計画，浸水対策も含めた外構や駐車場等の場内整備等の施設整備についての検討課題について協議を行い，基本計画図の作成や概算工事費の算出，整備事業の工程案の作成を行っていきたい。それらを経て，来年３月に基本計画を策定したい。

４．閉 会 （１６時２７分）